

【出題方針】

「現代の国語」と「言語文化（漢文を除く）」を範囲に、「国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力」を測定する問題を出題します。論理的な文章を素材とした課題文付きの大問1題と、古文を素材とした課題文付きの大問1題で構成され、〔知識及び技能〕の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の3事項と、〔思考力、判断力、表現力等〕の「書くこと」「読むこと」の2領域から、記述式と選択式の設問形式で問います。

【高校の学習で大切にしたいこと】

- 論理的な思考力と判断力、表現力を身につけるために、「現代の国語」の授業を中心に、さまざまな言語活動を積極的に行いましょう。
- 漢字・語句・表現技法などの国語の知識や技能の基礎となる力、文章の構成や展開の仕方を筋道立てて論理的に分析したり解釈したりする力、理解した事柄について効果的に表現する力が身につくよう意識して学習に取り組むことが大切です。
- 「言語文化」の授業を中心に、古文特有の語句や文語のきまりを理解することで、文章全体の展開を把握し、内容を理解することのできるよう学習を積み重ねましょう。また、日ごろから我が国の言語文化に関心を持ち、知識を蓄えておくことも大切です。

【2026年度 出題内容・出題形式・合計得点・試験時間】

出題内容	出題形式	合計得点	試験時間
一、評論	記述式	100 点	50 分
二、古文	選択式		

【出題の意図】

- 一、「野口悠紀雄著『「超」文章法』」を題材にして、大学入学後も必要となる国語の基礎的な知識・技能や、文章全体の構成や論理を的確に把握する力、理解した事柄を効果的に表現する力をみる問題を、難易のバランスを考えて出題しました。
- 二、『堤中納言物語』を題材にして、古文を読むための基礎的な知識・技能や、文章の展開を把握し解釈する力をみるための問題を同時に出題すると同時に、我が国の言語文化に関する基礎的な知識を問う問題を同時に出題しました。